(7) ルート7

本ルートは、追良瀬川支流のウズラ石の沢に沿った約3,400mのルートである。標高差が750mある急渓流である。追良瀬川から白神岳に上るメインルートになっている。白神岳の直下には水場があり、年中涸れることがない。白神岳から下るときは、迷うことはないが、下流から上るときは迷いやすいルートである。

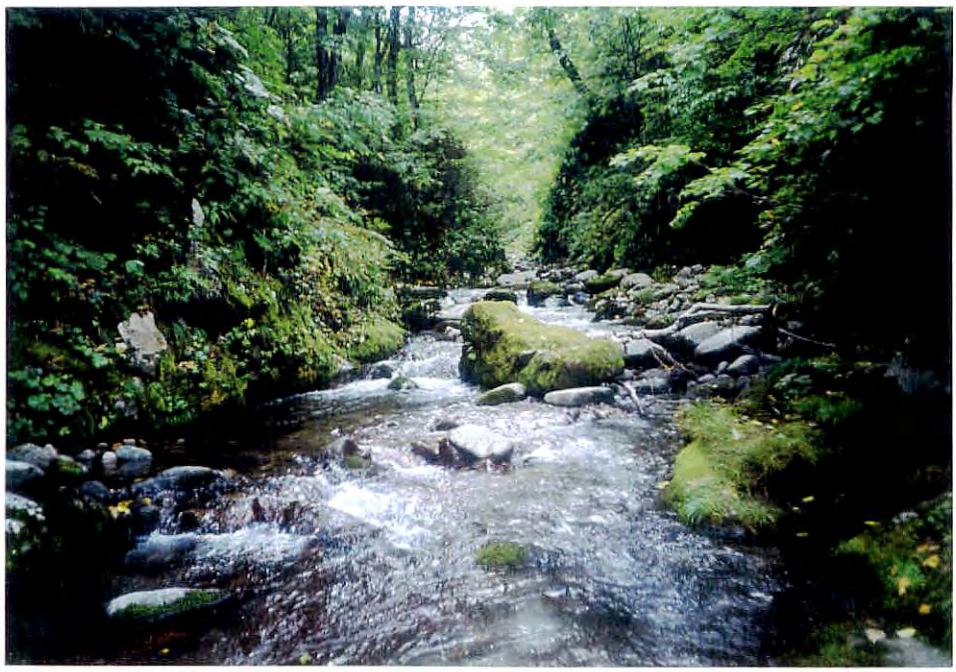

写真-23　ルート7の起点の状況

写真-24　ルートの中程の渓流の状況

キャンプ跡は、6箇所確認された。その内の1箇所は、金網、ナベ、シート等が保管されていた。2箇所のキャンプ跡は、川原で緊急時にキャンプしたと思われる跡であった。キャンプ跡のほとんどの箇所でタキ火跡があった。また、キャンプ跡で、15cmのサワグルミ等3本が伐採されていた。

滝と淵があり登攀困難な岩場に2本のロープが吊してあった。

写真－25　緊急時に使ったと思われるキャンプ跡

写真－26　保管されている金網

オオバコは、白神岳の山頂付近では密生するが、ルート内では起点から約1,400mの地点まで確認された。

標識類は、確認されなかったが、道標としてのテープ、ケルンが各1箇所で確認された。ゴミは、タバコの吸い殻とタオルがあった。

イワナは、合流点から800m上流の地点まで確認できたが多くはない。

キャンプ跡等から判断するに入り込みの多いルートである。

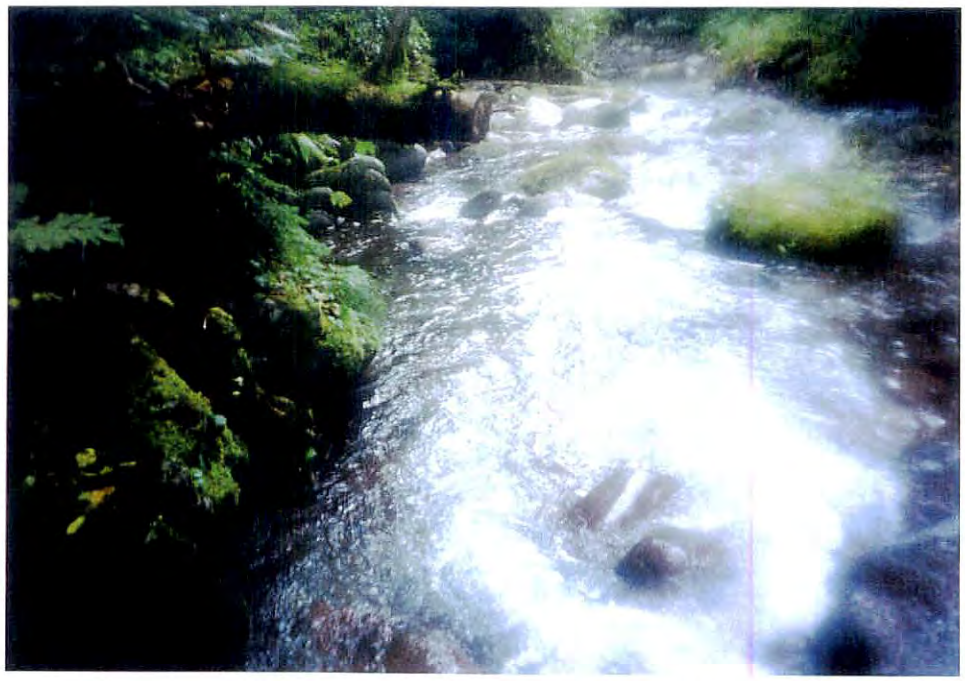

写真-27　キャンプ跡の直径15cmのサワグルミの伐跡跡

写真-28　起点より約1,400m地点のオオバコ

(8) ルート８

ルート8は、笹内川源流部の約800mのルートである。ルート8の起点に至るには、東北電力の笹内川ダムから笹内川沿いに約5,000m上る必要がある。この5,800mの区間に約1,000mの高低差がある急渓流である。

また、笹内川の流域は、地形が急峻で雪食地形が多く大量の石礫が堆積している。

笹内川ダムから約2,000mの地点に高さ約20mの通称魚泊ノ滝（よどめのたき）がある。ガイドの話によると、以前はこの滝より上流にはイワナは生息していなかったようである。今回の調査では、この滝よりも更に約2,000mの地点まで確認された。

笹内川は、イワナが少なかった関係、登山のメインルートでないことなどから他のルートと比べ入り込み数が少なく感じた。その関係かオオバコの侵入も少なく、笹内川ダムから約1,300mの地点までしか確認されなかった。逆に、ツガルミセバヤが下流域の川原等を含め全域に生育していた。

キャンプ跡は、関連ルート内で2箇所見られた。タキ火跡は関連ルート内のキャンプ跡に1箇所あった。

樹木の伐採は、関連ルート内の2箇所で確認された。

写真-29　笹内川ダム（関連ルートの起点）

写真-30　　ルート８の起点

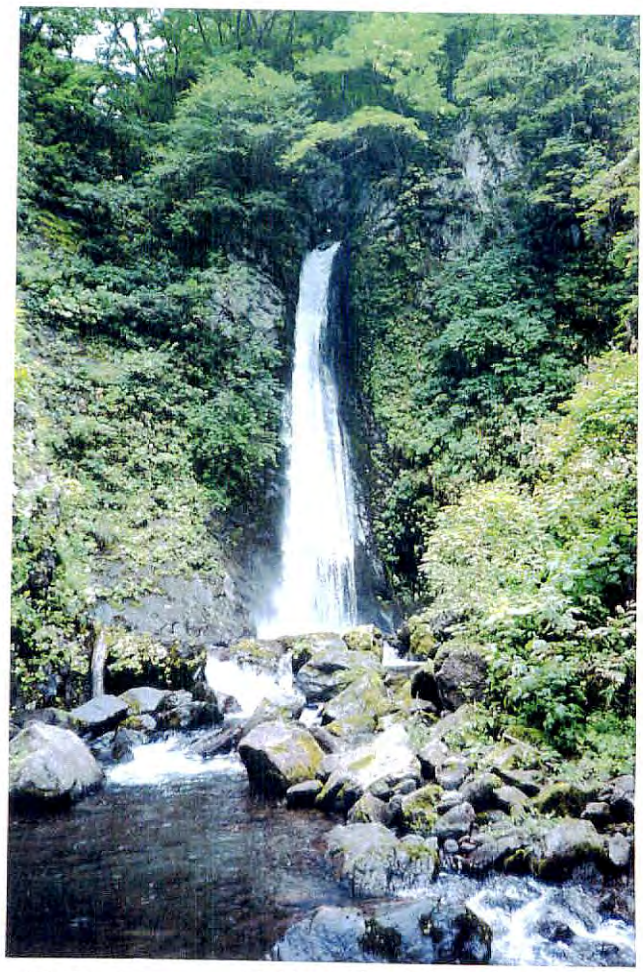

写真-31　　魚泊ノ滝（高さ約20m）

ゴミは指定ルート内にはないが、関連ルート内にビニール袋、空缶、ロープ、マットの切れ端などがあった。

関連ルート内であるが、岩場の渡渉困難な箇所にザイルが2本吊してあった。指定ルート内では滝を垂下するための補助ザイルが残されていた。

写真-32　　ゴ　ミ

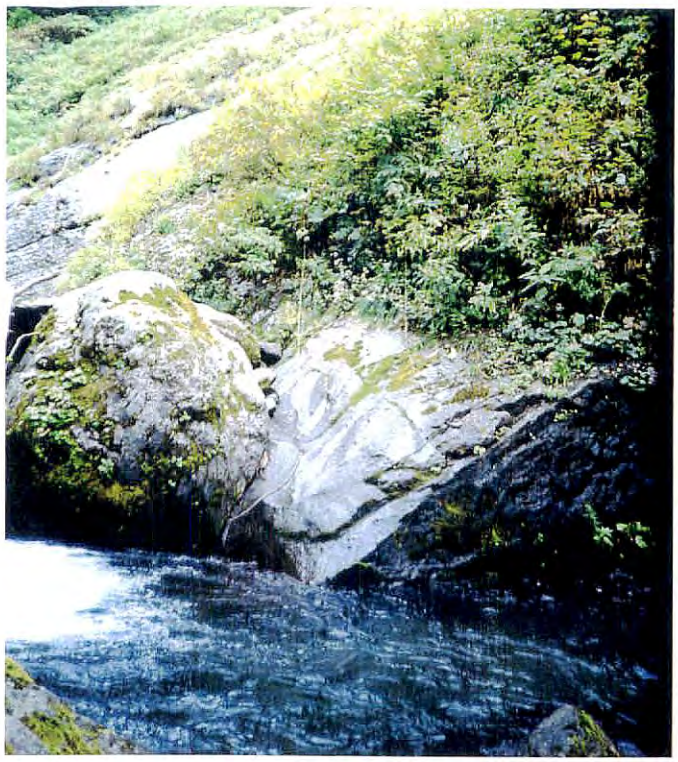

写真-33　　渓流の状況とザイル

鳥獣類としては、衰弱したトウホクノウサギを視認した。また、クマゲラの採餌痕があった。

ルート8は、標高740m以上の高山帯であり樹木は低木化し見通しが良い。

写真-34 全域で生育しているツガルミセバヤ

写真-35　衰弱したトウホクノウサギ

写真-36　関連ルート（笹内川）の渓流の状況

写真-37　ルート8からの遠望（向白神岳、岩木山、八甲田山等）

(9) ルート１１

ルート11は、四十八滝の沢に沿って天狗岳に至る約1,700mのルートである。この間、約620mの高低差のある急なルートである。大きな滝はないが小さな滝の連続である。

オオバコ、標識、ゴミ等もなく、また、人の踏み跡も少なく、入り込みの少ないルートである。イワナは、下流域で確認された。

写真-38　ルート11(四十八滝の沢)の起点の状況

写真-39　中流部の渓流の状況

(10) ルート１２

ルート12は、追良瀬川の支流である五郎三郎の沢を通り、町村界の尾根を越えて赤石川の支流のヤナギヅクリの沢を下る約2,700mのルートである。ほとんどが渓流を通るルートであるが、町村界の尾根越えの部分が山腹である。五郎三郎の沢の側は、渓流も急傾斜で滝も多い。山腹は40度を超える急斜面である。ヤナギヅクリの沢は急ではあるが滝も少ない。五郎三郎の沢と比べると山腹面に踏み跡もあり歩きやすい。余程注意して行かないと尾根を越えるとき道を間違えるおそれがある。

ルート12の起点は、高さ約20mの滝であり、通常左岸側をを迂回して上る。

オオバコは、五郎三郎の沢では起点から約800mの地点まで散生している。ヤナギヅクリの沢では確認されなかった。

両沢ともキャンプ跡、タキ火跡、道標、テープ、標識類、ゴミなどは確認されなかった。

尾根部で、5~6本の小木が刈り払われていた。

鳥獣類は、ツキノワグマとニホンカモシカの食痕が多く見られた。また、ツキノワグマの鳴き声も聞こえた。

イワナは、両沢とも最上流部まで比較的多く確認できた。五郎三郎の沢のイワナは、ガイドの話ではマタギが放流したものが繁殖したとのことであった。

写真-40　ルート12（五郎三郎の沢）の起点の滝

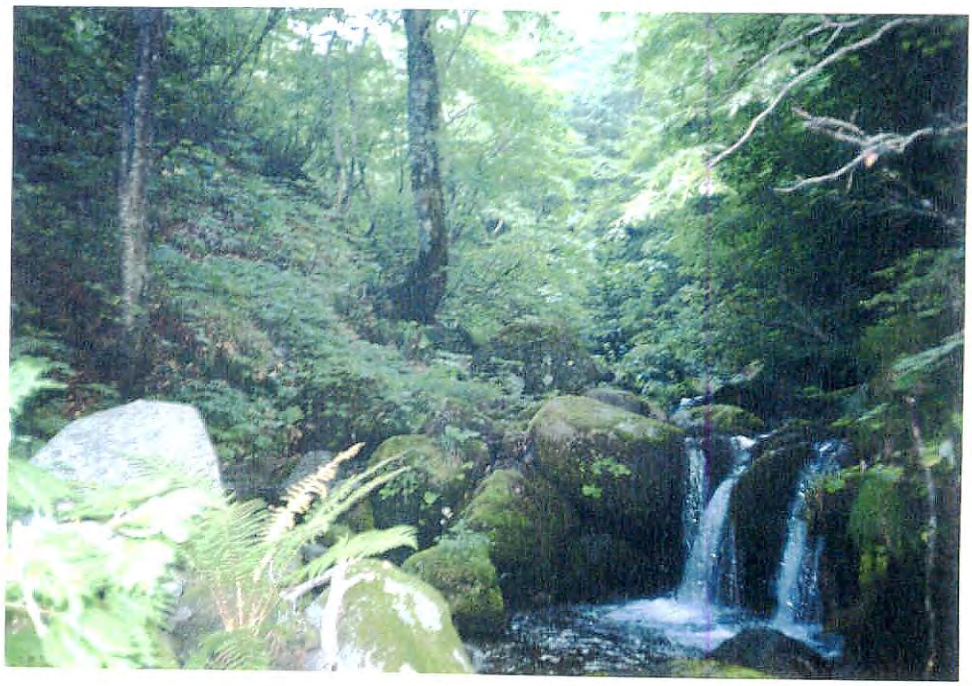

写真-41　ルート12（ヤナギヅクリの沢）の終点

写真-42　五郎三郎の沢の最上流のオオバコ

写真-43　ヤナギヅクリの沢側の山腹の踏み跡

写真-44　ツキノワグマの食痕

(11) ルート１３

ルート13は、追良瀬川の支流のサカサノ沢に沿った約1,400mのルートである。滝が少なく穏やかな渓流である。それより上流は、核心地域から外れるためルート13の関連ルートとして調査した。

ルート13の関連ルートは、サカサノ沢を更に上り町村界の尾根を越えて赤石川の源流の西ノ沢に至るルートである。

オオバコは、指定ルートのほぼ上流端まで散生しているが、それより上流では確認されなかった。関連ルートの西ノ沢側では源流部まで散生している。

キャンプ跡とタキ火跡は2箇所で確認された。起点に近いキャンプ跡は、比較的新しく根径5cmのタニウツギの木が伐られていた。ルートの中間にあるキャンプ跡は、規模も大きく現在でも度々使われている形跡がある。関連ルートでは、キャンプ跡はなかった。

標識類は、ルートの中間点のキャンプ跡に小さいアルミ製のものが1基あるが、表面が剥がれ内容は不明である。道標のテープが2箇所で確認された。ガスボンベ等ゴミも2箇所で確認された。関連ルートにおいても道標のテープが数ヶ所で見られた。ゴミも小さいのが1個確認された。道標のテープが目立つルートである。

イワナは、サカサノ沢では多く、一つの淵で30匹程度の群れも見られた。ガイドの話によれば、砂場が多く産卵のために集まるそうである。

写真-45　ルート１３の起点の状況

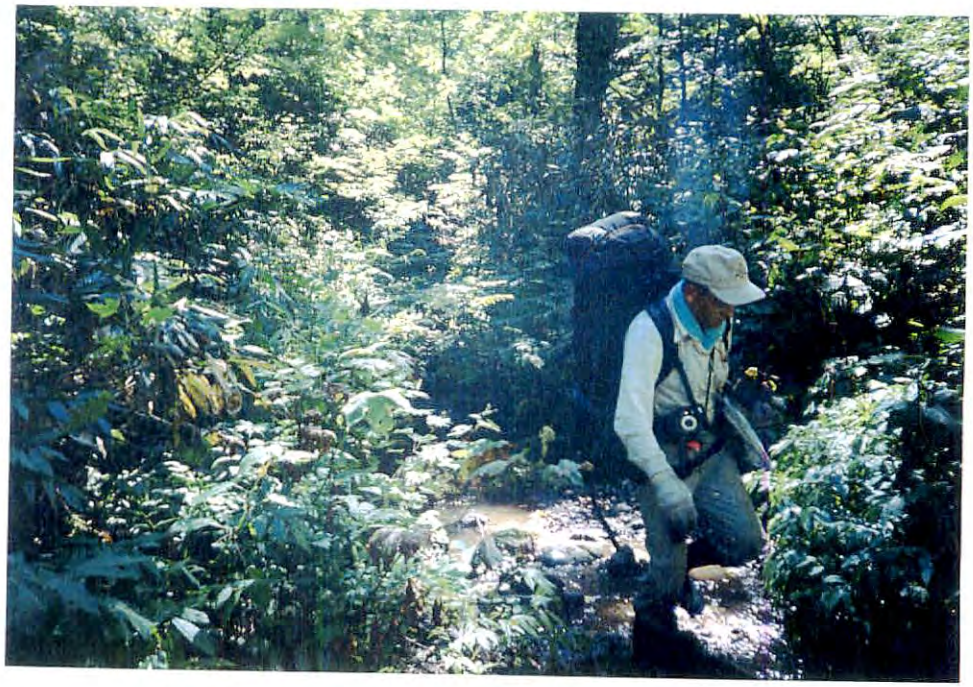

写真-46　ルート１３の関連ルートの起点の状況

写真-47　サカサノ沢の渓床の状況

写真 48　ルート13の中間辺りのキャンプ跡

写真-49　道標としてのテープの状況

写真－50　登山グツの新しい足跡

写真－51　古いキャンプ跡の放置されたガスボンベ

(12) ルート１４

ルート14は、滝川本流沿いに約2,000m、更に滝川支流の西ノ沢沿いに約800m上るルートである。ルートの終点から左岸側の小渓流を上って町村界の尾根を越えサカサノ沢のルート13に出る。滝川本流は比較的緩い渓流であるが、西ノ沢は急である。所々に滝がある。

写真－52　ルート１４の起点の状況

写真－53　起点付近の踏み跡の状況

ルート14は、全線でオオバコが散生している。さらに上流の関連ルート(13~14)、指定ルートよりも上流の滝川にも散生している。

キャンプ跡は、1箇所あった。標識類、ゴミはなかったが、岩場に登攀用のロープが1箇所あった。

指定ルートから外れるが、滝川に西ノ沢との合流点から約1km上流にアイコガの滝（3段の滝）がある。踏み跡がはっきりしている。

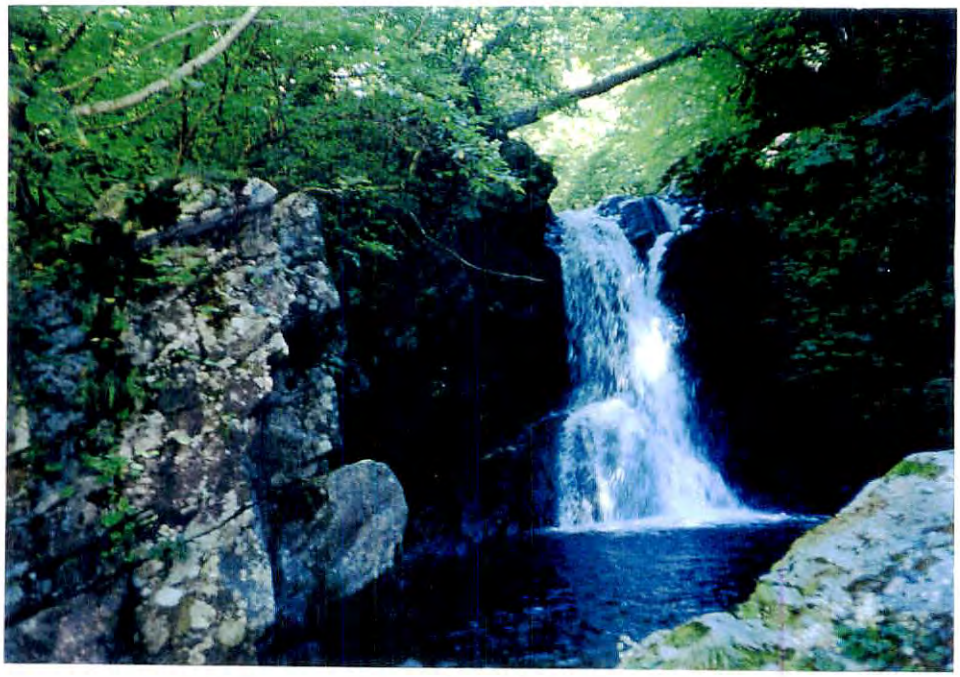

写真-54　アイコガの滝（上＝6m）

写真-55　合流点より約100m上流のキャンプ跡のオオバコ

(13) ルート１５

ルート15は、赤石川本流と滝川に分かれる二股である。中の尾根筋が摩須賀岳に至るルート21である。終点は、ヤナギヅクリの沢との合流点までの約2,000mのルートである。

オオバコは、多くはないが全線に散生する。キャンプ跡は、3箇所あり2箇所でタキ火跡があった。また新しい伐根(5cm)もあった。

写真-56　ルート15の起点の二股(左が赤石川本流、右が滝川)

写真-57　オブチノ沢（マタギが11名遭難）

ルート21は、二股の中間の尾根を上り摩須賀岳を経由しノロの沢を下り赤石川に至るルートである。起点の登山口は、かすかに踏み跡が認められる程度で明確でない。

登山口には、キャンプ跡がありタキ火跡もある。

ルート15内には標識、道標、ゴミなどは確認されなかった。

イワナの姿は、容易に確認できた。

写真-58 ルート21の起点（摩須賀岳登山口）

写真-59　二股のキャンプ跡

(14) ルート１６

ルート16は、赤石川本流沿いの約1,500mのルートである。終点は、二股（赤石川と滝川の合流点）である。川幅は広く、水量も多い。ルートの起点は赤石堰堤から赤石川沿いに約4,200mの上流の地点にある。

この関連ルートには、下流から曲淵沢、石の函沢、ハンノキ沢、天狗沢、釜淵沢等の小沢が流入している。

両岸は、笹内川、追良瀬川及び大川と比べ比較的緩やかである。

オオバコは、関連ルート、指定ルート内とも全線で散生する。キャンプ跡では密生する箇所がある。

キャンプ跡は、天狗沢の合流点、クマゲラの森歩道の終点、二股の近くの3箇所が確認された。特に、クマゲラの森歩道の終点のキャンプ跡は、規模も大きく現在も頻繁に使用されている。タキ火の跡も規模が大きい。イワナを焼いたタケ串も見られた。樹木の伐採については、新しい伐根は見られないが、古い伐根が多数見られる。

標識類は、赤石堰堤広場に森林生態系保護地域、自然環境保全地域、禁漁区等の標識があった。禁漁区の標識については、ダム湖尻にもあった。指定ルート内では確認されなかった。道標としてのペンキによるマークがクマゲラの森歩道の終点に付けられていたが古いものである。

ゴミは、確認されなかった。鳥獣類については、ニホンザルの群れとホンドタヌキの糞が確認された。

イワナは、下流部で確認できない区間もあったが、多いようである。

写真-60　赤石堰堤を望む

写真-61　ルート16の起点の状況

写真-62　クマゲラの森下のキャンプ跡のタキ火跡

(15) ルート１７

ルート17は、二股からヤナダキの沢との合流点までの約1,200mの赤石川本流沿いのルートである。川幅が20~40mと比較的広く、渓床勾配も緩やかで洪水時以外は歩きやすい。

キャンプ跡は、ルート沿いに5箇所確認され、全箇所タキ火跡があった。他に、川原のタキ火跡で類焼したと思われる箇所があった。

写真-63　ルート17の起点の状況

写真-64　キャンプ跡

標識類、ゴミも確認されなかった。
イワナの姿は、比較的容易に確認された。
キャンプ跡等からして比較的人の入り込みがあるものと思われる。

写真-65　タキ火跡

写真-66　同上の箇所で類焼したと思われる

(16) ルート１８

ルート18は、ヤナダキの沢との合流点からノロの沢の合流点までの約1,900mのルートである。渓床も安定しており歩きやすいルートである。

オオバコは、全線で散生している。キャンプ跡は、4箇所確認された。

ルート21（ノロの沢）は、川幅3m程度のＶ字状の渓流である。沢口は流出した土砂が堆積している。

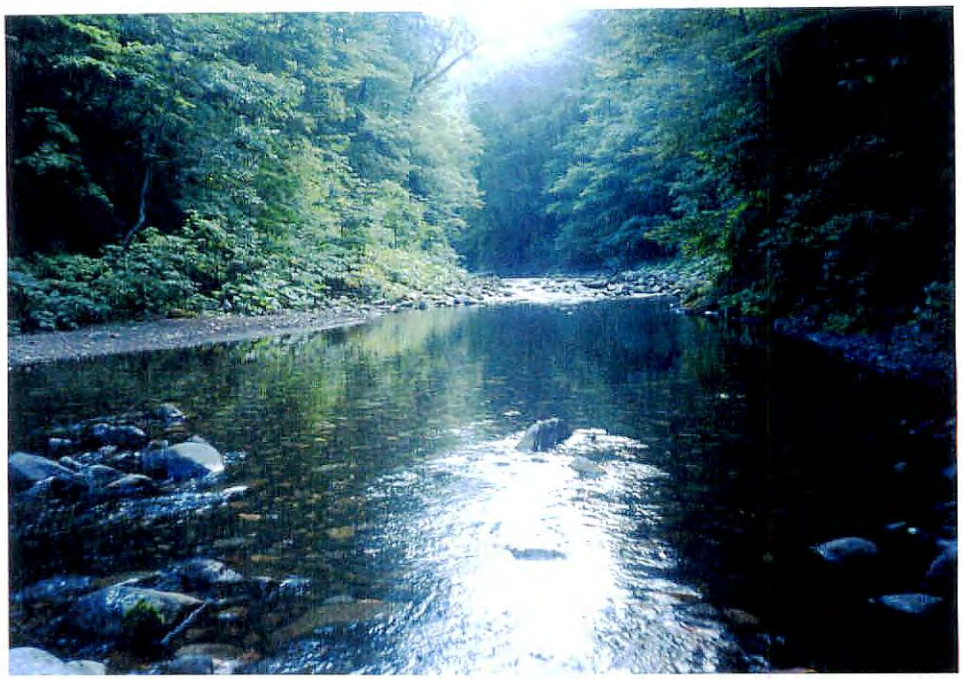

写真-67　ルート18の起点の状況

写真-68　ルート21（ノロの沢）の沢口の状況

(17) ルート１９

ルート19は、ノロの沢（ルート21）との合流点から石の小屋場沢（ルート25）との合流点までの赤石川本流沿いの約4,500mのルートである。

オオバコは、全線で散生しキャンプ跡では密生している箇所がある。

キャンプ跡は、3箇所確認され、いずれの箇所でもタキ火跡があり、2箇所でイワナを焼いたタケ串が残っていた。

写真-69　ルート19の起点の状況

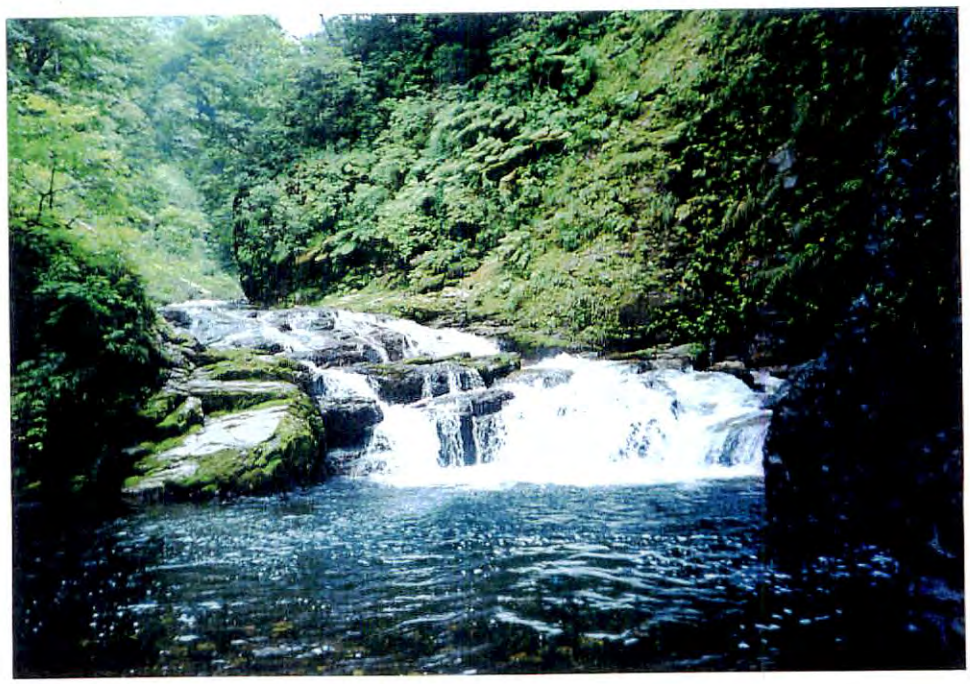

写真-70　ルートの渓流の状況（石滝）

標識類、道標類、ゴミは確認されなかった。

鳥獣は、アオサギとツキノワグマ及びクマタカが視認された。

イワナの姿は、容易に確認できるが焼き串等からして釣り人が入っている。

聞き取り調査によれば、釣り人は、二ッ森から泊沢に下り、赤石川を下り二股から滝川を上り秋田側の青秋林道に出るそうである。

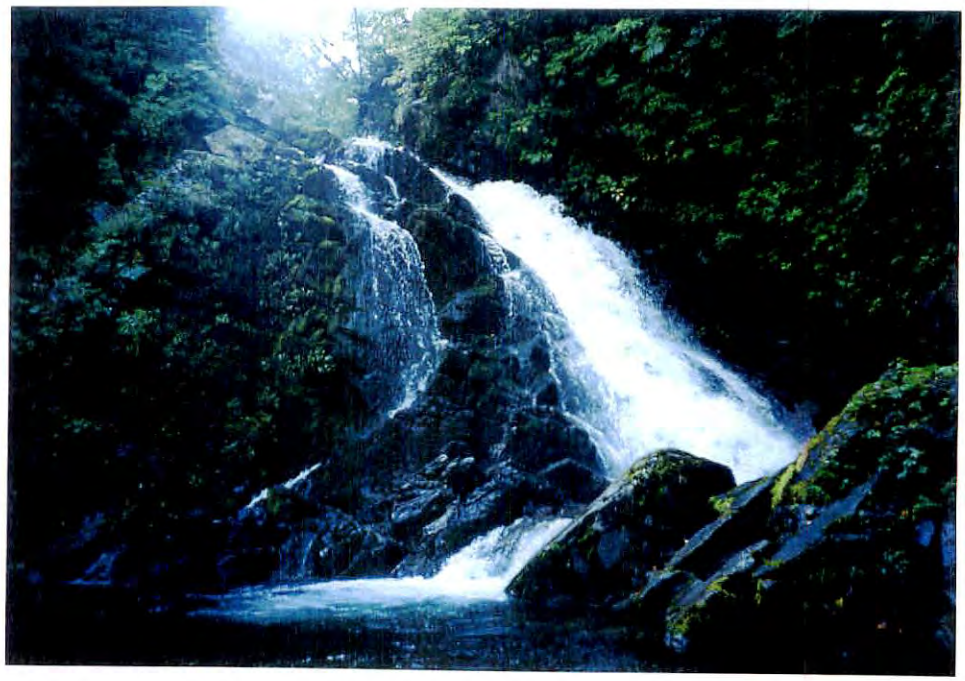

写真-71　魚止めの滝（高さ15mと3mの2段の滝）（下の滝）

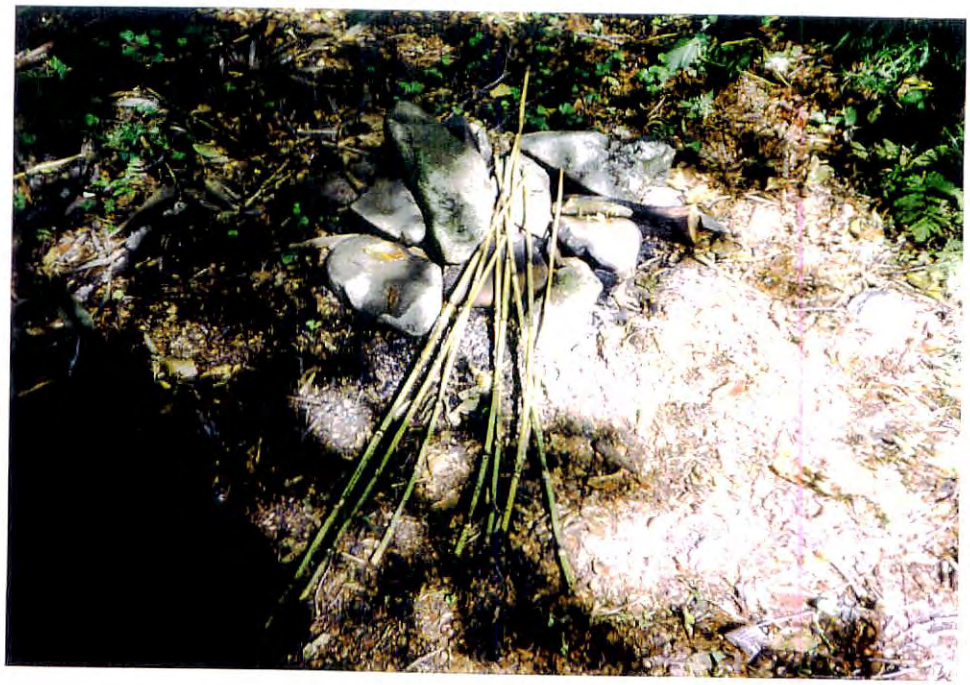

写真-72　タキ火跡（イワナの焼き串）

(18) ルート２０

ルート20は、石の小屋場沢との合流点を起点に赤石川本流を約1,400m上り、次に狐ケ倉沢に入り西目屋村との町村界の尾根までの約3,800mのルートである。今回の調査区間は、カネマサコ沢との合流点までの約2,300mである。オオバコは、終点のカネマサコ沢まで確認された。

キャンプ跡は、1箇所、ゴミも1個確認されたが標識類はなかった。

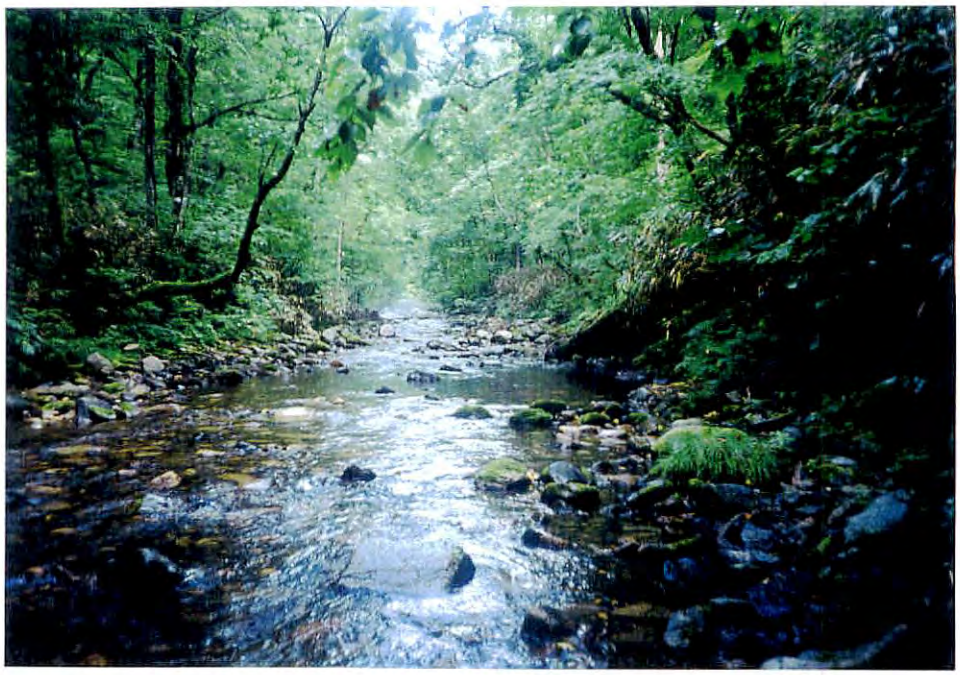

写真-73　ルート20の起点の状況

写真-74　調査区間終点のカネマサコ沢

写真-75　狐ケ倉沢合流点のキャンプ跡

写真-76　終点のオオバコ

(19) ルート２２

ルート22は、ルート23と24に接続するヤナダキの沢に沿って赤石川まで下る約800mのルートである。V字谷で渓床勾配は急で、幾つかの滝があり、赤石川との合流点も滝になっている。

下流部では、渓床が一枚岩になっており滑りやすい。

写真-77　ルート22の起点の状況

写真-78　終点のヤナダキの沢の沢口

本ルート沿いには、良好なブナ林があり、青森分局と環境省のモニタリングサイトがある。

キャンプ跡は、起点の川原に痕跡がある。以前はタキ火跡もあったが今回の調査では確認されなかった。踏み跡等から人の入り込みは多い。

オオバコ、標識類、ゴミは確認されなかった。

イワナは、小さいが確認された。

写真-79　青森分局のモニタリングサイトに行く沢

(20) ルート２３

ルート23は、暗門の滝遊歩道約2,000mを通り、次に西股沢沿いに約3,500m上り、町村界の尾根を越してヤナダキの沢に出るルートである。

暗門遊歩道は、整備されているが入り込み人数の割に道幅が狭いため最盛期には渋滞することが多い。

暗門第一の滝から上流は、西股沢沿いであるが迂回路ははっきりとした道形ができている。大きな滝はないが何箇所か滝がある。聞き取り調査によると奥赤石林道が閉鎖されたことにより、赤石川に入るために本ルートを使う者が増えた。

ルート23は、西目屋村側は渓流と山腹がほぼ半々であるが、鰺ヶ沢町側は山腹を通るルートである。道形ははっきりしているが、急峻地の一部を除いて裸地化はしていない。

オオバコは、指定ルート内では確認されなかったが、起点近くのフカケノ沢の合流点まで散生している。

標識類は、遊歩道の入口に数多く設置されている。関連ルート上では3箇所に森林生態系保護地域の標識が設置されていた。指定ルート内では、起点からやや上流にアルミ製の標識が設置されているが、表面が剥がれているため内容は不明である。布テープの道標が1箇所あった。

キャンプ跡、タキ火跡は、関連ルート上で4箇所確認された。

イワナは、暗門第一の滝を上ったすぐのところの淵で10匹程度の群れを確認するなど源流部まで確認された。

写真-80　暗門の滝遊歩道起点の標識類

写真-81　暗門第一の滝

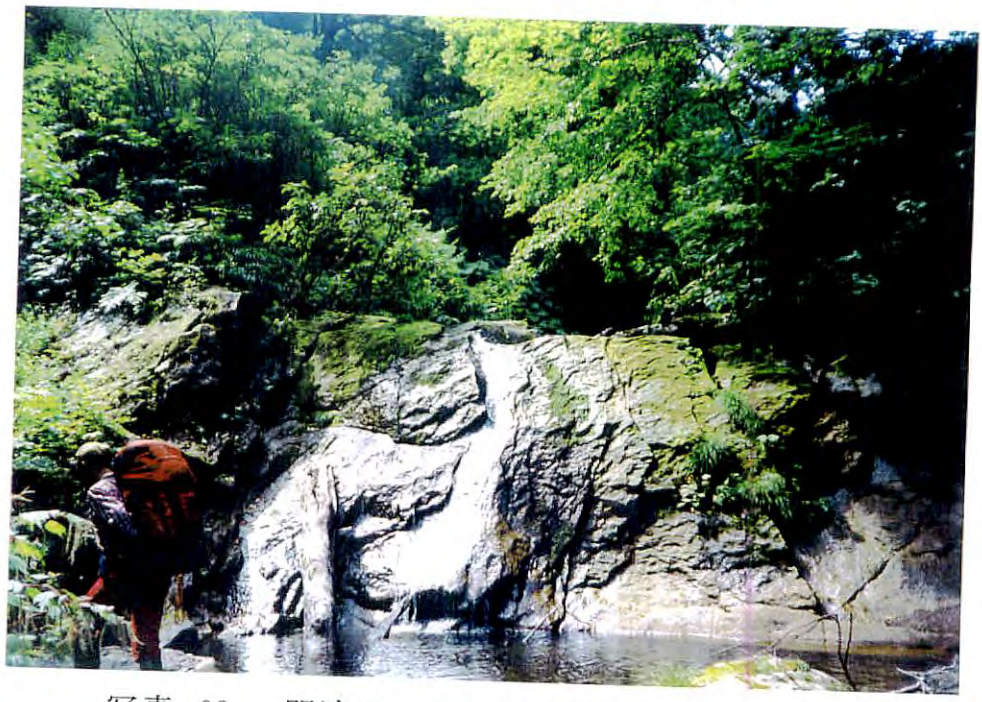

写真-82　関連ルートの渓流の状況（高さ約5mの滝）

写真-83　ルート23の起点の踏み跡（迂回路）

写真-84　ルート23の終点（ヤナダキの沢に交差）

(21) ルート２４

ルート24は、奥赤石林道から既存歩道であるクマゲラの森歩道を通りクマゲラの森に行く分岐点からヤナダキの沢と交差する地点までの約200mの区間である。

ヤナダキの沢の交差点からルート23を経て暗門大橋に通じるルートでマタギ道といわれている。

クマゲラの森の分岐点（起点）からの約100mは比較的平坦であるが、それ以降は急斜面を下ることになる。世界遺産登録直後は、マタギ道といわれても現在ほどはっきりしておらず、下層土はほとんど露出していなかった。現在では、歩行者も多くルートの40%の区間で下層土が露出している。

終点のヤナダキの沢との合流点の所に、旧マタギ小屋の跡がある。現在は、トタンの切れ端が残されている程度で小屋はない。キャンプに使われている。

オオバコは、このマタギ小屋跡に密生するが、他の箇所では見られない。

標識類、ゴミ類は見られないが、道標としてのテープが2箇所で確認された。

今回の調査では聞かれなかったが、クマゲラの声も聞くことのできるルートである。

写真-85　ルート24の起点の状況